



その
3

県内企業の景況感

全産業の現状は「 先行きも「上昇」超

昇」超に転じて二年。先行き一二年、十一年七月九月期は製造業で「上昇」超幅が縮小し、非製造業で「引き続き下降」超となつてゐる。とかく全産業ではわざかななり「下降」超に転じる見通しなつて二年。一二月期は製造業で「上昇」超幅が拡大し、非製造業で「上昇」超に転じて二年。とかく全産業では「上昇」超に転じる見通しなつて二年。

売上高 十一年度通期業績見通し

十一年度は上期・下期とも、製造業・非製造業のいずれも增收とみており、全産業では各々・三・三%、一・八%の增收見込みと見通しておる。

經常損益

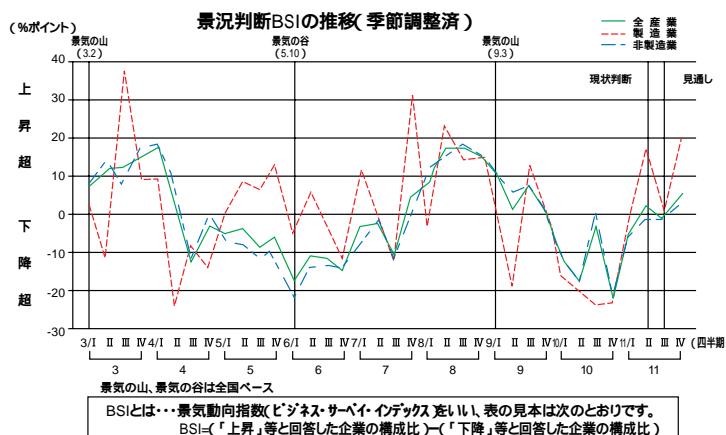
十一年度上期は、非製造業で減益となり、このものの製造業で大幅な増益となり、これから、全産業では七・一%の増益見込みとなつてゐる。

十一年度通期は、製造業、非製造業とも増益となりましたが、全産業では十一・三%の増益見通しな günd。

従業員数

現状では、非製造業で「不足気味」超幅が縮小し、製造業で「過剰気味」超幅が拡大していることから、全産業で「過剰気味」超に転じている。

先行きについては、製造業で「過剰気味」超幅が縮小し、非製造業で「不足気味」超幅が拡大する見通しなどである。



中期的な経営課題
全産業では、国内販売体制、営業力の強化」を挙げる企業が最も多く、次いで「企業実態に即した雇用、人事、給与システムの確立」の順となつてゐる。

超に転じる見通しとなつてあり、大企業、中堅企業では引き続き「きびしい」超で推移する見通しとなつてゐる。